

第9回 豊川水系流域委員会

議事要旨

日時：令和7年1月21日（火） 10:00 - 12:00

場所：豊橋商工会議所 4階 406会議室

1. 開会

2. 挨拶

3. 話題提供

(1) 最近の河川事業を取り巻く話題

- ①令和6年台風10号出水（概要）
- ②令和6年度の自然災害の被害状況
- ③流域治水プロジェクト2.0の取り組み状況
- ④豊川圏域大規模氾濫減災総合サミットの取り組み状況
- ⑤豊川治水協定に基づく事前放流の実施状況
- ⑥霞堤地区浸水被害軽減対策事業の実施状況
- ⑦ワンコイン浸水センサの取り組み状況
- ⑧矢作川・豊川カーボンニュートラルプロジェクトの取り組み
- ⑨豊川河川維持管理計画の更新について

・事前放流の評価について定量的に調べるのは難しいとしても、例えば当時のダム操作について、ダム管理者と情報交換と検証をされる予定はあるか。

→（事務局回答）豊橋河川事務所とダム管理者の間で情報交換は行っている。ただし、定性的な評価の検証は現時点ではできていない。

（設問委員）評価につなげられるようにぜひ今後、検討されると良い。

・流域治水プロジェクト2.0の取り組みにおいて、降雨量が約1.1倍になると全国の平均的な傾向として流量が約1.2倍になるとあるが、豊川の試算はされているか、あるいはこれから実施されるのか。

→（事務局回答）現在検討中であり、現時点ではこの場で回答できる内容までには至っていない。ご説明できる状況になれば改めて機会を設けて、本委員会にて共有したいと考えている。

・設楽ダム建設事業の進捗状況については、定期的に進捗状況を発信してはどうか。

工事が順調に進んでいるかを公表していただけると、安心が与えられると考える。
→（事務局回答）中部地方整備局では、設楽ダムも含めたダム事業の予算や施工状況等については、毎年第三者の委員会であるダム事業等監理委員会において説明する機会を設けており、事業監理を行いながら進めている。今後、本委員会において、どのような資料で共有するか検討したい。

・気候変動シナリオ 2°Cの上昇によって、流量増加分に対応する豊川水系河川整備計画がどのような内容になるか。

→（事務局回答）現在、豊川水系で実施する整備内容については検討中であるが、小堤を先行整備する計画であり、流域治水プロジェクト 2.0 における河道掘削や樹木伐採による河道の流下能力増加等、本川の対策を考え、併せて流域治水も踏まえ支川対策等も検討しつつ、地域の治水安全度をさらに高めていく方針を考えている。

4. 議題

（1）豊川水系河川整備計画の事業進捗状況（河川の維持に関する事項）

・「ゲートの無動力化（自動化）」とあるが、どういうことか。自動化と無動力化は同じ意味なのか。

→（事務局回答）ゲートの自動化は、電力を用いる施設のため遠隔操作ができる形式。無動力化は、電力を使わずに堤防の内側と外側の水位差で閉まる構造のことで、フラップゲートとお考えいただきたい。

・無電力化は電力を使わなくても違う動力を使う方法があると考え。人的に操作する方法、遠隔操作する方法を踏まえて、無電力・無動力・自動化の3つを分けて考えた方が望ましい。

→（設問委員）直轄以外の排水機場においても操作規則はあると思うが、どのように調整しているか。

→（事務局回答）直轄以外の排水機場においても、それぞれ、こういった場合に運転を停止するなど、関係者と確認をして調整を行っている。

・河道内樹木の再繁茂対策とあるが、堆積傾向か洗堀傾向にあるか。河川管理において、元々の河道形状が持っている特性を踏まえて、河道内樹木の再繁茂箇所の対策を検討されたい。

→（事務局回答）堆積傾向の箇所等も考慮した上で、対策を検討していきたい。

・令和5年6月出水時に、避難判断水位を超えたとの説明であるが、内水ポンプの停止をされたか。また、停止された場合に内水浸水被害等が起きなかったか。

→（事務局回答）大潮で河川水位が高かったこと、周囲の支川の水が排水機場の能力では排水しきれない降雨状況だったため、（外水より）先に内水が溜まり、操作員が早く避難した状況と聞いている。樋門・樋管によって操作規則が違うが、基本的にはポンプ場を停止して避難することになっている。ただし、昨年度の出水を踏まえ引き続き、関係者と勉強会の実施や操作内容検討していきたい。

・樋管等の自動化や河川美化・清掃などは住民団体等の協力を得るのは良い取り組み。維持補修における省力化の取り組みで、『簡易的な補修を実施した場合、経年変化を確認する』とあり、その方法で耐え得るのが一番重要だと考えるので、状況のモニタリングをしていっていただきたい。なお、材質の観点でマイクロプラスチックとして、直接海洋に流出する可能性があるので、プラスチックを使わないように考慮されたい。

→（事務局回答）簡易的な補修を実施することを考えているが、これから始めていくため未確定な点がある。一般的に手に入る材料を使って十分な強度が保てるような場合は、今後多くの場所で行うことも可能であり、もし問題があれば、補修方法を再度考え直す必要がある。まずは実施して状況を確認したい。また機会があれば、先生方にも現地へ来て頂き、特に学生の皆さんも含めて一緒に状況確認する機会を設けられたらと考えている。学生の興味を惹く、自然環境や水質とは異なり、維持管理はなかなか興味を持たれないところであると考えている。将来的に持続可能な維持管理に協力いただきたいと考えている。

・維持管理において様々な市民団体等が入っていることが非常に良いと感じた。こういった方々を増やすために、今後どのようにマッチングさせていくのか。

→（事務局回答）アダプト制度における市民団体等の参加は、公募をかけて募集している。豊橋河川事務所のホームページ等で紹介している。

→（設問委員）愛知県の環境部局でも同じようなマッチングに取り組んでいるので、愛知県と共同して声を掛けるとより多くの団体の参加を促せるのではないかと。

→（事務局回答）市民団体等の募集については頂いた意見を踏まえて進めていきたい。

（委員長の総括）

・河川の維持管理は、非常に多様な分野があり、人手不足・気候変動の2つが折り重なった課題に関する意見があった。通常時の維持管理については、DXをはじめ効率化していきながら、補修のあり方については持続可能な手法を検討されたい。市民団体等の協力も重要であり、ボランティアや漁協等の環境面の連携の話もあった。洪水時の維持管理については、排水機場、樋管等の操作のあり方についてこれから知見を積み重ねていき、豊川に合った操作方法を開発されたい。

以上を踏まえ、今回のご説明の範囲で異議なしということでした承する。

（2）その他

- ・(事務局) 第10回の流域委員会では、洪水、高潮等による災害の発生の防止又は軽減に関する事項についての事業進捗の報告を予定している。

以上